

平成26年度間
大分県学力向上対策の総括及び今後の取組

- I 学力の具体的な状況
 - 1 大分県学力定着状況調査の結果の概要（小5・中2対象）
 - 2 全国学力・学習状況調査の結果の概要（小6・中3対象）

- II H26年度の行動提起にかかる取組状況
 - 1 「新大分スタンダード」の実施状況
 - 2 補充指導・家庭学習指導の状況
 - 3 全教員で共通実践に取り組む学校体制づくりの状況

- III 学力向上対策の成果と課題
 - 1 小学校
 - 2 中学校

- IV 今後の学力向上に向けた取組について

1 学力の具体的な状況

(1) 大分県学力定着状況調査の結果の概要（小5・中2対象）

- 小学校は3年連続で全ての教科の偏差値が50を超え、一定レベル以上の学力を身に付けさせることができる環境が整ってきた。
- ▲ 中学校国語〔活用〕、中学校英語〔知識〕〔活用〕は、偏差値50を超えることができなかった。
- ▲ 5段階度数分布で見ると、中学校数学〔知識〕〔活用〕中学校英語〔知識〕〔活用〕における低学力層（偏差値35未満）の割合が、標準分布7%よりいずれも大きい。

・ 中学校数学	〔知識〕	8%	（ 9市町村が7%以上）
	〔活用〕	8%	（ 11市町村が7%以上）
・ 中学校英語	〔知識〕	9%	（ 10市町村が7%以上）
	〔活用〕	11%	（ 16市町村が7%以上）

(2) 全国学力・学習状況調査の結果の概要（小6・中3対象）

① 正答率や正答数に着目した全体的な結果

【小学校】

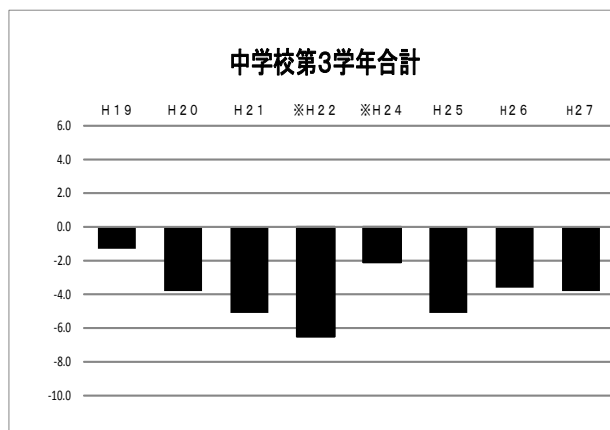
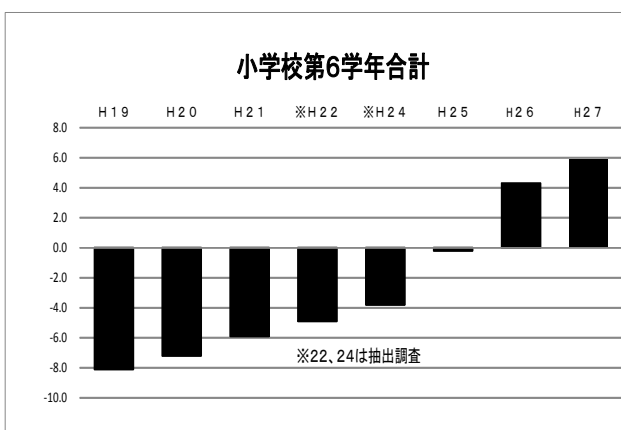
- 昨年に引き続き、国語A・国語B・算数Aの平均正答率が全国平均を超えた。
- 初めて悉皆で実施された理科は、全国平均を超えた。
- 全ての教科の平均正答率を合計した数値は全国で14位（昨年度16位）。昨年度に引き続き、九州トップレベルの学力を達成。

- ▲ 問題Aに比べ、問題Bに学力差が見られる。
- ▲ 算数Bの平均正答率は全国平均を超えず、12市町村が、全国平均以下。

【中学校】

- 昨年に引き続き、国語Aの平均正答率は全国平均を超えた。
- ▲ 国語B・数学A・数学B・理科の平均正答率は全国平均に届かず、伸び悩んでいる。
- ▲ 全ての教科の平均正答率を合計した数値は全国で32位（昨年度35位）でこれまでの中で最もよかったものの、足踏み状態が続いている。
- ▲ 特に、数学A・Bにおいて、全国平均正答率との差が大きい。

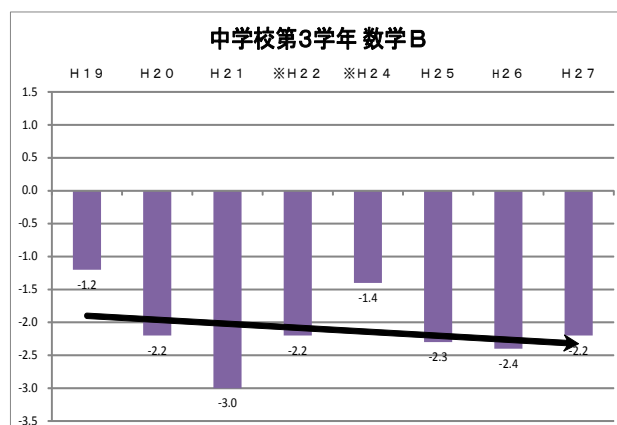
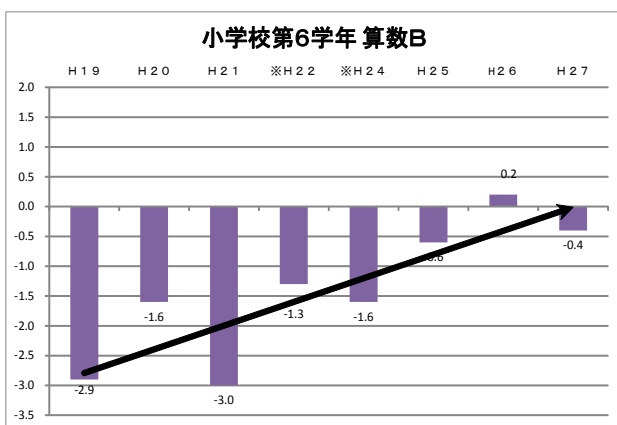
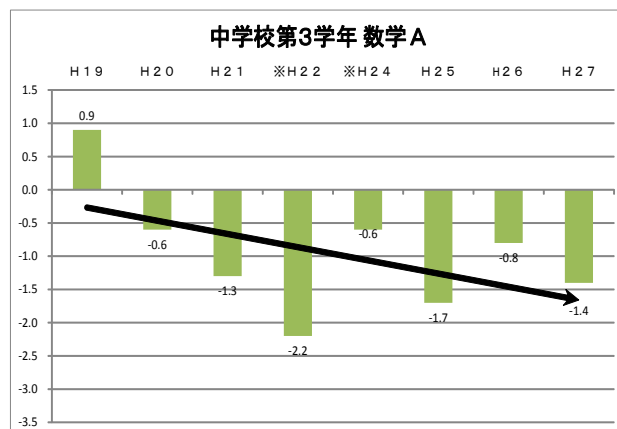
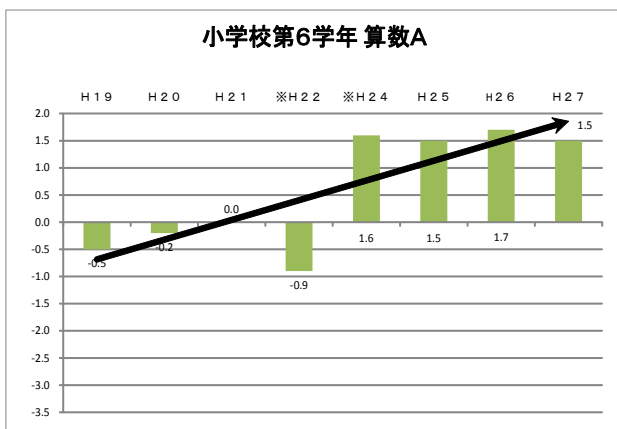
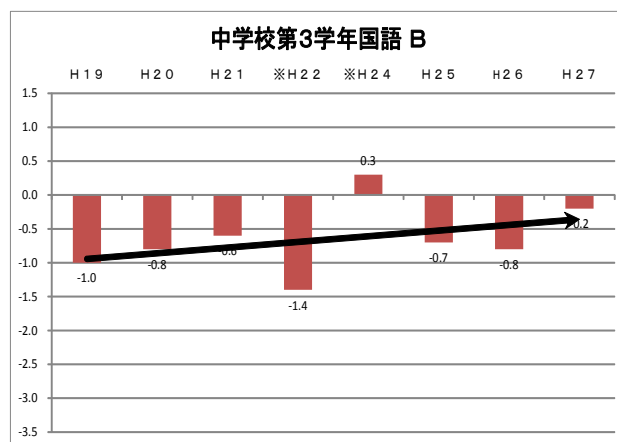
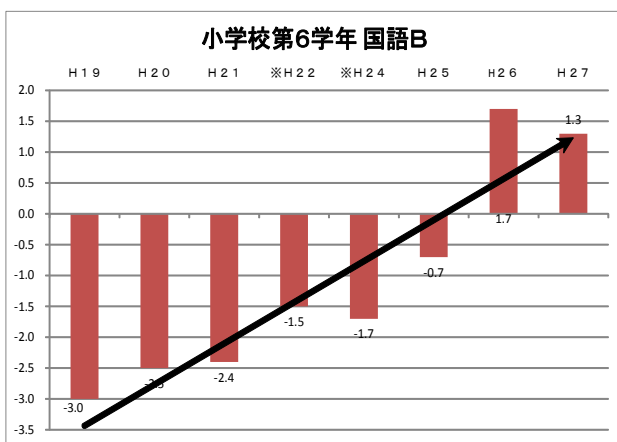
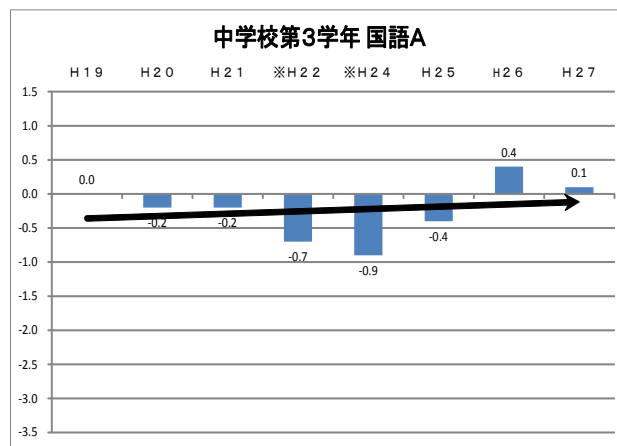
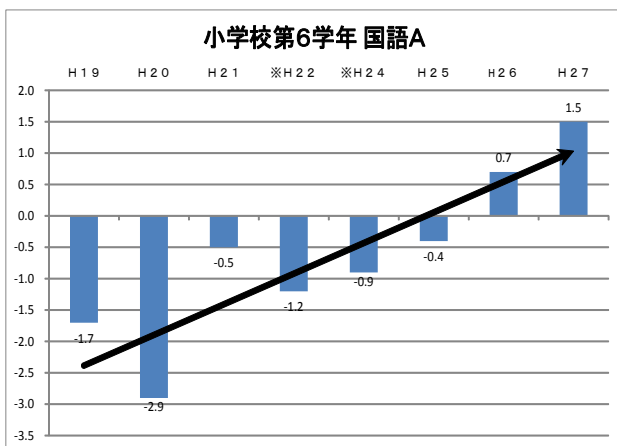
〈資料1〉教科合計の平均正答率の全国との差（経年推移）



〈資料2〉各教科の平均正答率と全国との差（経年推移）

【小学校】

【中学校】



Ⅱ H26年度の行動提起にかかる取組状況

H26年9月の検証会議で確認したこと

- 1 「新大分スタンダード」の実施
 - ・本時のゴール、本時で目指す子どもの姿を明確にした大分スタンダードのブラッシュアップ
 - ・子どもの「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成する授業
⇒生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業
- 2 基礎的・基本的な知識・技能を確かに定着させる補充指導及び家庭学習指導
- 3 全教員で共通実践に取り組む学校体制づくり
⇒『「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き』を活用した校内研究の実施

1. 「新大分スタンダード」の実施状況

(1) 小学校の状況

- ・学校質問紙では、いずれも昨年度より改善されており、ほとんど全国平均を上回っている。
- ・しかし、問題解決的な展開の授業や言語活動の充実については、回数も質も十分とは言えない。
*児童は、「友だちの話を最後まで聞くことや話し合いによって自分の考えを深化・拡充する」こと、「自分の考えを説明したり文章で書く」こと等を苦手と考えている。
- ・授業の中で分からないことがあったとき、「その場や授業が終わってから先生に尋ねる」児童は4分の1で、そのままにしておく児童が6%いる。「そのままにしておく」と回答した児童については、なぜそのような状況になっているのか、丁寧な分析と働きかけ等が必要である。

(2) 中学校の状況

- ・「発言や活動の時間を確保する」ことや「話し合う活動を授業で行う」ことは昨年度より改善されている。
- ・しかし、小学校に比べ、「大分スタンダード」の内容でさえ取組が進んでいない。
- ・特に問題解決的な展開の授業や言語活動の充実については、回数も質も不十分である。問題解決的な展開の授業については、その具体がイメージ出来ない教員がいる。
- ・授業中の「習熟の程度に応じた指導」に難しさを感じている教員が多い。
少人数指導やT.Tでなければ出来ないと思いついでいるふしがある。
- ・授業の中で分からないことがあったとき、「その場や授業が終わってから先生に尋ねる」生徒は7.8%で、10人に1人は「そのままにしておく」と答えている。生徒の回答状況を確認し、担当する教員が共通理解をするとともに、改善されているのか、改善されていないとすればどのように手立てを打つのか、個別の働きかけが必要である。

<学校質問紙の回答状況>

	質問事項	小学校		中学校	
		大分	全国	大分	全国
1	算数・数学の授業中、年間2分の1以上は習熟の遅いグループに少人数指導を行い、習得できるようにした	29.0	32.4	31.3	25.3
2	算数・数学の授業中、年間2分の1以上は習熟の早いグループに少人数指導を行い、発展的な内容を扱った	18.8	23.4	27.4	19.8
3	算数・数学の授業中、年間2分の1以上はチームティーチングによる指導を行った	29.7	32.9	26.8	33.0

「新大分スタンダード」に関連する質問事項の回答状況
 小学校(児童質問紙)

項 目	H27大分	全国	H26大分	H27秋田
①授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていた	59.1	57.5	56.3	80.8
②授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていた	42.1	38.9	40.6	60.7
③ノートに学習の目標とまとめを書いた	73.2	66.6	—	86.3
④授業の中で分からないことがあったらどうするか				
・その場で先生に尋ねる	17.6	16.1	15.8	16.0
・授業が終わってから先生に尋ねに行く	8.6	8.7	8.5	7.0
・友だちに尋ねる	30.7	30.8	30.5	35.9
・家の人に尋ねる	23.6	23.1	25.6	21.2
・学習塾等の先生に聞く	3.0	4.3	3.3	1.6
・自分で調べる	9.9	11.2	9.8	13.2
・そのままにしておく	6.0	5.2	5.9	4.2
⑤課題を立て、解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んできた	32.2	32.4	—	48.2
⑥自分が発表する機会が与えられていた	55.5	56.9	49.3	67.8
⑦友だちの前で意見を発表することが得意	22.2	20.6	20.7	21.4
⑧自分の考えを他の人に説明したり文章で書くことは難しい	17.0	18.3	14.8	18.8
⑨原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい	18.6	17.3	16.4	14.8
⑩友だちと話し合う活動をよく行っていた	46.6	46.7	48.3	61.0
⑪友だちの話や意見を最後まで聞くことができる	50.8	55.8	49.7	66.1
⑫話し合う活動を通じて、自分の考えを深化・拡充することができる	25.3	25.2	22.6	37.1

中学校(生徒質問紙)

項 目	H27大分	全国	H26大分	H27秋田
①授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていた	55.0	41.9	49	77.8
②授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていた	21.9	19.4	18.3	45.1
③ノートに学習の目標とまとめを書いた	54.8	39.3	—	70.2
④授業の中で分からないことがあったらどうするか				
・その場で先生に尋ねる	9.3	10.6	9.9	10.0
・授業が終わってから先生に尋ねに行く	8.5	10.3	8.4	9.3
・友だちに尋ねる	37.0	35.9	35.4	43.0
・家の人に尋ねる	6.8	5.7	6.9	5.5
・学習塾等の先生に聞く	12.2	15.1	13.2	8.2
・自分で調べる	12.8	12.3	13.1	17.4
・そのままにしておく	10.1	7.0	10.9	4.9
⑤課題を立て、解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んできた	22.8	22.1	—	37.8
⑥自分が発表する機会が与えられていた	44.0	46.2	34.7	64.3
⑦友だちの前で意見を発表することが得意	16.6	17.0	15.3	17.3
⑧自分の考えを他の人に説明したり文章で書くことは難しい	11.8	12.2	10.6	13.1
⑨原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい	16.5	15.0	14.0	13.9
⑩友だちと話し合う活動をよく行っていた	36.5	34.2	33.5	55.5
⑪友だちの話や意見を最後まで聞くことができる	51.9	54.7	47.3	62.9
⑫話し合う活動を通じて、自分の考えを深化・拡充することができる	18.4	18.4	16.9	28.0

小学校(学校質問紙)

項 目	H27大分	全国	H26大分	H27秋田
①授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を計画的に取り入れた	81.5	71.1	79.7	97.7
②振り返る活動を計画に取り入れた	65.6	47.6	54.7	77.9
③ノートに学習の目標とまとめを書くように指導した	71.0	57.9	—	92.0
④各教科のねらいを明確にした言語活動を適切に位置づけてきた	35.5	26.9	23.6	44.1
⑤課題を立て、解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動を取り入れてきた	20.3	17.2	—	24.9
⑥本やインターネットなどを使った調べ方が身に付く授業を行った	29.0	28.2	23.6	27.7
⑦資料を使って発表できるような指導をした	21.0	23.3	17.0	25.4
⑧自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした	32.6	27.2	22.1	42.7
⑨ICTを活用して協働学習や課題発見・解決型の学習を行った	13.4	15.0	10.1	11.7
⑩様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導をした	35.5	30.7	31.5	42.7
⑪発言や活動の時間を確保して授業を進めた	49.6	46.2	44.9	61.4
⑫児童は自分の考えを相手にしっかり伝えることができる	14.1	10.3	12.7	13.1
⑬学級やグループで話し合う活動を授業などで行った	47.5	47.8	43.8	65.3
⑭児童は相手の考えを最後まで聞くことができる	23.9	20.7	19.9	35.7
⑮児童は話し合い活動で自分の考えを深化・拡充することができる	10.9	7.7	5.1	10.3
⑯児童は熱意をもって勉強していると思う	28.3	24.7	27.5	36.2
⑰児童は授業中の私語がなく、落ち着いていると思う	41.7	38.5	36.2	48.8
⑱児童の良い点、可能性等を見つけ積極的に評価した	47.8	46.4	40.6	53.5

中学校(学校質問紙)

項 目	H27大分	全国	H26大分	H27秋田
①授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を計画的に取り入れた	72.5	56.3	76.0	90.7
②振り返る活動を計画に取り入れた	42.7	34.2	46.5	67.8
③ノートに学習の目標とまとめを書くように指導した	35.9	30.7	—	60.2
④各教科のねらいを明確にした言語活動を適切に位置づけてきた	25.2	22.2	20.2	42.4
⑤課題を立て、解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動を取り入れてきた	9.9	12.0	—	24.6
⑥本やインターネットなどを使った調べ方が身に付く授業を行った	13.7	18.4	12.4	31.4
⑦資料を使って発表できるような指導をした	14.5	17.3	14.7	25.4
⑧自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした	20.6	20.0	20.2	33.9
⑨ICTを活用して協働学習や課題発見・解決型の学習を行った	4.7	8.6	4.7	16.1
⑩様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導をした	17.6	22.6	15.5	39.8
⑪発言や活動の時間を確保して授業を進めた	37.4	32.4	24.8	55.9
⑫生徒は自分の考えを相手にしっかり伝えることができる	6.9	9.3	12.4	11.0
⑬学級やグループで話し合う活動を授業などで行った	42.0	32.0	36.4	57.6
⑭生徒は相手の考えを最後まで聞くことができる	22.1	21.9	20.9	34.7
⑮生徒は話し合い活動で自分の考えを深化・拡充することができる	7.6	8.6	7.0	9.3
⑯生徒は熱意をもって勉強していると思う	19.8	21.7	18.6	32.2
⑰生徒は授業中の私語がなく、落ち着いていると思う	45.0	49.3	44.2	61.9
⑱生徒の良い点、可能性等を見つけ積極的に評価した	40.5	40.9	33.3	51.7

2. 補充指導・家庭学習指導の状況

放課後を利用した補足的な学習を週2～3回以上実施している学校の割合は、小・中学校共に全国値より高い。

なお、秋田県は、小中学校とも全国平均と同程度であり、躍進の顕著な沖縄県の小学校では、58.4%の学校が「週2～3回程度実施している」と回答している。

全国で「全く行っていない」と回答した学校の割合は、小学校は41.6%、中学校19.1%であり、中学校では2年生段階でも約80%の学校が、放課後に何らかの補充指導を行っている。児童生徒の生活時間全体のバランスも見ながら、より効果的な補充指導が求められる。

「家庭学習の課題の与え方を校内の教職員で共通理解する」ことは平成25年度の「きめ細かい調査」の結果「不利な環境を克服している」児童に対する指導の特徴の一つとしてあげられている事項である。小・中学校共に全国値より高いが一層の充実が望まれる。

なお、秋田県は小学校66.7%、中学校49.2%である。

<学校質問紙の回答状況>

質問事項	小学校		中学校	
	大分	全国	大分	全国
1 放課後を利用した補足的な学習の実施を週2～3回以上行っている	32.6	17.7	36.6	14.9
2 家庭学習の課題の与え方について校内の教職員で共通理解をよく図った	56.2	42.4	38.9	30.5

(参考) H25年度 全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果

◆不利な環境においても成果を上げている学校の取組

□家庭学習指導の充実

宿題だけでなく、自主学習等に取り組みせ、教員が毎日チェック・コメントをしている。

□管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視

中学校において教科を超えて授業を見せ合い、教え合いを行っている。管理職が明確なビジョンや方針を示し、共通理解を図っている。他校の授業を見る研修を促している。

□小中連携の取組の推進

小中で学習規律・生活規律面や教育課程の系統性を図っている

□言語活動の充実

(例) ノート指導の充実・黒板にめあてを書き、授業のねらいを明確化させる・教育課程全体で「話すこと」や「書くこと」に力を入れている・「聞くこと」ができている・読書習慣の形成に力を入れている

□各種学力調査の積極的な活用

□基礎・基本の定着と少人数指導

◆学校内の家庭の社会的背景による影響を縮小する小学校の取組

□放課後を利用した補足的な学習サポート

□算数の授業における習熟度別少人数指導(習熟の遅いグループに対する指導)

□小中連携(教科の指導内容や指導方法についての連携)

□家庭学習の課題の与え方に関する教職員の共通理解

3. 全教員で共通実践に取り組む学校体制づくり

「芯の通った学校組織」の推進により、「4 学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として積極的に取り組んでいる」学校の割合は全国値よりも10ポイント程度高い。他の項目についても全国値をいずれも超えている。

しかし、中学校教科指導力向上協議会出席者を対象とした意識調査（別紙参照）では、校内研究における「取組内容」「取組指標」を共通理解して進めている状況は半数に満たないという結果になっている。組織的な授業改善については、検証・改善の機会に再度、全教員で共通実践を確認する必要がある。

質問事項	小学校			中学校		
	大分県	全国	秋田県	大分県	全国	秋田県
1 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている	37.7	37.0	50.7	28.2	27.5	41.5
2 学校全体の言語活動の実施状況や課題について全教職員の間で話し合ったり検討したりしている	40.6	36.9	57.3	35.9	24.6	47.5
3 学校全体の学力傾向や課題について全教職員で共有している	70.7	59.4	73.2	64.9	52.0	70.3
4 学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として積極的に取り組んでいる	<u>65.9</u>	55.8	61.0	<u>59.5</u>	48.0	59.3
5 校長は、校内の授業をほぼ毎日行っている	65.6	64.1	86.9	50.4	42.5	71.2

校長の授業観察の実施状況は小学校で全国値と同程度、中学校では8ポイント程度高い。しかし、中学校教科指導力向上協議会出席者を対象とした意識調査では、授業改善に効果のある取組として「校長の授業観察」をあげた教員はほとんどいない状況である。

校長は児童生徒の状況や教員の指導力についてたくさんの情報を持ち、最もたくさんの指導助言の機会をもっている。学校全体の授業改善における校長の役割は非常に大きい。授業観察の方法や指導助言の在り方等を見直し、充実を図る必要がある。

Ⅲ 学力向上対策の成果と課題

1 小学校

(1) 成果

- ・学力向上支援教員の授業や、芯の通った学校組織による取組により、多くの学校で「新大分スタンダード」に基づく授業改善が進みつつある。

(2) 課題

「新大分スタンダード」の徹底

- 全ての教員による実践
- 思考力・判断力・表現力等を育成する授業の質のさらなる向上
⇒授業改善5点セットの「取組内容」の深化・発展
*問題解決的な展開の授業について、何を「問題・課題」にしてどのような学習プロセスで追究させるのか、調査問題を参考に、教科の本質に迫る授業を追求することが必要である。
*調査したいずれの教科においても、「理由や根拠を、学習用語を用いて過不足無く説明する」ことに課題が見られる。授業中に「B 概ね満足できる状況」としてある「説明」でよいのか、全国調査の解説を参考に、評価規準を確認し、全ての教科で説明する力を高める必要がある。
- 習熟の程度に応じた指導の充実
⇒本時における指導の工夫・放課後等の補充学習の充実・家庭学習指導の充実

2 中学校

(1) 成果

- ・学力向上支援教員協議会や教科指導力向上協議会（郡市1名参加）等で、授業改善の方向性について理解し、実践しようとする教員は増加した。
- ・学校質問紙では「生徒の発言や活動の時間を確保する」ことや「生徒の良い面を積極的に評価しようとする」こと等が意識され、改善されてきた。

(2) 課題

- ①付けたい力を明確にし、知識・技能と思考力・判断力・表現力等の双方を育成する
「新大分スタンダード」の普及と徹底
 - 全ての教科・全ての教員による実践
 - 習熟の程度に応じた指導の充実
⇒本時における指導の工夫・放課後等の補充学習の充実・家庭学習指導の充実
- ②全教員が共通認識の下、「取組内容」を共通実践として確実に実施する組織的な授業改善 ⇒校内研究体制の確立
- ③「生徒の学びに向かう力を高める」ための特別活動等の充実
⇒「学びに向かう学校」づくり

Ⅳ 今後の学力向上に向けた取組について

○取組の大きな方向性は変えない。

- 1 付けたい力を明確にし、知識・技能と思考力・判断力・表現力の双方を育成する「新大分スタンダード」の徹底（全教科・全教員）
- 2 基礎的・基本的な知識・技能を確かに定着させる補充学習指導及び家庭学習指導の充実
- 3 生徒指導の三機能を生かした授業や特別活動の充実による「学びに向かう」学校づくりの推進(特に中学校)
- 4 1から3に組織的に取り組む校内体制の確立

1 2学期からすぐに取り組む具体的な対策 *○は県教委・市教委 □は学校の取組

(1) 全ての学校

○第1回プロジェクト会議で報告された「成果の上がっている学校の取組事例」の周知。

(県教育委員会 HP に掲載、リレー式授業改善協議会等でアナウンス)

*管理職の組織マネジメントやカリキュラムマネジメントによる学力向上の取組

*成果の上がっている市町村の取組

□義務教育課が示した「全国学力・学習状況調査を生かした指導の改善」(次頁)に、全教員が取り組み、「今、求められている学力」「今、実施すべき授業」を共通理解する。

□「新大分スタンダード」に基づく授業改善シート等を活用した管理職の授業観察の実施。

□各学校の校内研究(授業改善計画)の計画に基づいた検証・改善の確実な実施。その際、再度、全教員に「取組内容」等の共通理解を徹底する。

□補充指導・家庭学習指導等の見直し・強化。

(2) 「数学」が3年間一度も全国平均正答率を超えていない学校

□既に作成している学力向上プランをもとに、市町村教委や県教委の助言を得ながら、各学校で強化すべき取組を絞りこんだり、新たな取組を設定したりする。その際、市町村教委・県教委は連携して、学校の困りの状況に応じた取組の提示や指導・支援を継続的に行う。

(3) 市町村(郡市)教科部会(国・数・英)

○希望する市町村教育委員会の教科部会に出向いて、授業研究・指導案作成研修等を行う。

2 平成28年度の取組・事業について

- ・人的配置
 - ・物的支援
 - ・指導支援
- } 中学校に厚い予算要求をしていく。

中学校学力向上対策プロジェクト会議について

1 目的

各教育事務所から選出された中学校長・中学校教諭・市町村教育委員会指導主事の代表者及び県教育委員会関係者に意見を広く求め、伸び悩んでいる県内中学校の学力について、問題点を深掘りするとともに、改善の方向性を明らかにし、学力向上のための施策に反映させる。

2 委員

- ・中学校校長・・・・・・・・・・各教育事務所管内 1 名
 - ・教諭等・・・・・・・・・・各教育事務所管内 1 名
 - ・市町村教育委員会指導主事・・・各教育事務所管内 1 名
 - ・県教育庁
 - 義務教育課長（座長）
 - 教育改革・企画課 改革企画班参事
 - 教育人事課人事管理監
 - 義務教育課学力向上支援班参事
 - 各教育事務所次長兼指導課長（6名）
 - ※事務局 義務教育課学力向上支援班指導主事（2名）
- 30名

3 会議の予定

9月 2日 第1回学力向上プロジェクト会議

9月14日 平成27年度第1回学力向上検証会議

県教育委員会指導主事等の学校訪問・教科部会研修等

10月上旬 学校関係者及び市町村教育委員会指導主事に委員の任命・会議出席依頼

11月 6日 第2回学力向上プロジェクト会議

- ・学力向上検証会議後の取組状況の報告
- ・中学校の学力が伸び悩んでいる原因について（意見交換）
- ・成果を上げている学校・問題を克服した学校や市町村の取組の具体例（意見交換）
- ・県教育委員会に求める支援や施策

※第2回学力向上プロジェクト会議報告書作成・配付

1月22日 第3回学力向上プロジェクト会議

- ・学力向上検証会議後の取組状況の報告
- ・取組状況についての意見
- ・県教育委員会に求める支援や施策

2月10日 平成27年度第2回学力向上検証会議

- ・第3回プロジェクト会議の報告
- ・平成28年度の学力向上の取組